令和4年 上富良野町議会第2回定例会

一般質問 質問事項一覧

届出順	氏 名	質 問 事 項
1	9番 佐藤 大輔	1 高校生と、そのご家族に対する支援について
2	2番 北條 隆男	1 子育て世帯（高校生）への補助について
3	11番 小林 啓太	1 町の少子化対策に関して
4	12番 小田島 久尚	1 学校給食費について 2 定住移住促進対策について
5	4番 中瀬 実	1 ジェットコースターの路に駐車場の設置は
6	7番 米沢 義英	1 高齢者対策について 2 高齢者の補聴器助成について 3 高校生への支援制度について 4 営業と暮らしを守る対策について 5 道路の改修について 6 泥流地帯の映画化について
7	8番 荒生 博一	1 ラベンダーハイツの将来像について 2 上富良野町パークゴルフ場について

一般質問通告書(令和4年6月定例会)

氏名・質問事項・答弁先	質 問 要 旨
<p>1</p> <p>9番 佐藤 大輔</p> <p>1 高校生と、そのご家族に対する支援について</p> <p style="text-align: right;">(町 長)</p>	<p>我が町は、上富良野高校の存続を目的として、町内外問わず、上富良野高校に通う全ての生徒を対象に、入学準備金や就学支援金、通学費補助金の支給など様々な支援策を講じてきた。近年、安定的に入学者数を確保しているのも、その成果の表れと評価している。</p> <p>一方、町内から旭川市内や富良野市内などの高校に通う生徒に対して支援の手は差し伸べられておらず、町内で義務教育を終えた全ての子どもたちに対する町の関わり方が、果たして適切と言えるのかどうか疑問が残る。</p> <p>町の将来を担う子どもたちが、人生設計を立てる上で重要な選択を迫られる高校進学に際し、目標に向かって躊躇なく歩みを進められるよう、切れ目のない子育て支援制度を構築し、全ての子どもたちとそのご家族にしっかりと寄り添うことが求められていると思うが、町外の高校に通う生徒と保護者の負担軽減策に関する以下の3点について町長の所見を伺う。</p> <p>(1) 全国的に通学費の補助事業を実施している自治体が散見されるが、今後、我が町も同様の支援策を講じる考えはあるか。</p> <p>(2) 利便性の高い JR 美瑛駅までの輸送サポートなど、今後、直接的な費用面以外での支援策を講じる考えはあるか。</p> <p>(3) 他の自治体との連携や、JR 北海道及び各学校への働きかけなどにより、最も早い上り始発列車で通学する生徒や保護者の負担を軽減する方策を研究、検討する考えはあるか。</p>
<p>2</p> <p>2番 北條 隆男</p> <p>1 子育て世帯(高校生)への補助について</p> <p style="text-align: right;">(町 長)</p>	<p>(1) 町外へ通学する高校生への JR 定期代の補助について</p> <p>町外の高校に進学する生徒が大半を占めている現状の中、通学に使用している JR 定期代は、子育て世帯にとっては大きな負担となっている。(1年間の定期代 富良野まで 102,640 円、旭川まで 138,280 円) 子育て世帯への負担軽減のため半額程度の補助は行えないのか。</p>

	<p>(2) 高校生へのタブレット代補助について 今年度入学時からタブレットが必要となった。町としても、上富良野高校に入学した生徒に対しタブレット代の90%補助を行っているが、町外の高校へ進学した生徒に対し、50%程度の補助を行ってもよいのではないかと。</p> <p>(3) 高校生の医療費無料化について 今年度から始まった中学生までの医療費無料化だが、高校生まで範囲を広げてもよいのではないかと。</p> <p>以上1項目3点につき町長の考えを伺う。</p>
<p>3 11番 小林 啓太 1 町の少子化対策 に関して (町 長)</p>	<p>かみふらの総合戦略において『少子化が進んだ原因は多岐にわたるが、安心して子どもを生み、育てられる環境づくりは、最も優先して取り組むべき課題の一つ』であるということが明記されている。一方で上富良野町の合計特殊出生率は減少の一途をたどり、20年前の2002年には148人いた出生数も令和2年度には59人と大きく減少している。</p> <p>少子化が進んでいる原因の一つとして不妊に悩む夫婦が増加しているという現状がある。厚生労働省の発表によると、実際に不妊の検査や治療を受けたことがある夫婦は18.2%で、夫婦全体の約5.5組に1組の割合に上るといわれている。また、体外受精等の「生殖補助医療」を受けて出産に至る出生児の割合は増加傾向にあり、厚生労働省の発表では2008年には全出生児の2%だった割合は2019年には全体の7%まで増加し、全出生時の約14人に1人が「生殖補助医療」の力を借りて誕生しているという事実がある。</p> <p>これらの社会的背景を鑑み、国は本年4月より一般不妊治療（タイミング療法や人工授精）と特定不妊治療（体外受精など）の保険適用をスタートさせた。これまでの間、北海道においては、保険が適用されず特に医療費が高額になってしまっていた特定不妊治療に関しては、一部制限はあったものの、治療費に対して助成が行われ、それでも補いきれない分は各市町村が独自の支援体制で治療に取り組む夫婦をサポートしていた実態があった。</p> <p>一方、上富良野町では、これまで不妊治療に対して自治体としての独自の支援はなく、上川管内19町村の内16町村が独自の助成を行っていた中でも沈黙を保ってきた。私は、最</p>

	<p>も優先して取り組むべき課題の一つである「安心して子どもを生める環境づくり」をする上で、出産を望んでいるが子どもを授かりづらい夫婦に対して、町としてサポートしていくことが上富良野町の繁栄には必要であると考えている。そこで以下6点に関して質問し、町長の所信を伺う。</p> <p>(1) 少子化は子育て世帯の課題と考えるか、それとも全世代に関わる問題と考えているか。</p> <p>(2) 上富良野町における不妊治療に取り組む夫婦の実態に関して、町としてどの程度の情報を把握しているのか。</p> <p>(3) これまで不妊治療支援に関して、政策として検討を行ってきた経緯はあるのか。</p> <p>(4) 不妊治療に対して、今後町独自の助成を含む支援等を行っていく方向性はあるか。</p> <p>(5) ふるさと納税の使途目的に「安心して子どもを生み、育てられる環境づくり」に係る事業を加えることは可能か。また検討を行っていく方向性はあるか。</p> <p>(6) 厚生労働省の調査によると、不妊治療と仕事の両立ができず、16%（女性の場合は23%）が離職に至っているというデータがある。上富良野町職員が不妊治療に取り組む際は、どのような制度を利用して働きながら不妊治療に取り組むことが可能か。また今後、制度改善に向けて取り組んでいく考えはあるか。</p>
<p>4 12番 小田島 久尚 1 学校給食費について (教育長)</p>	<p>食品やエネルギーなどの価格が上昇しており家計への負担が増えている状況である。</p> <p>今後、さらなる食品の価格上昇も見込まれる中、給食費の値上げを心配する声も聞いている。</p> <p>給食費の値上げについて教育長の考えを伺う。</p>
<p>2 定住移住促進対策について (町長)</p>	<p>人口減少に歯止めをかけるため定住移住促進対策として、結婚祝い金、出産祝い金、住宅取得費補助などを実施している自治体がある。</p> <p>このような施策を取り入れる考えはあるのか町長に伺う。</p>
<p>5 4番 中瀬 実 1 ジェットコースターの路に駐車場</p>	<p>上富良野町の西山地区に上富良野八景の一つジェットコースターの路がある。この路は1999年上富良野町民によって選定され、北28号から国道237号までの約3kmの起伏のある直線道路である。</p>

<p>の設置は (町 長)</p>	<p>このジェットコースターの路は町としても自慢すべき景観が楽しめる場所であり、2年位前まではレンタカー、観光バス、インバウンドで多くの外国人も大雪山国立公園の素晴らしい景色を堪能していた。コロナの影響で訪れる観光客もまばらであったが今年の春先から少しずつではあるが、レンタカーによる観光客が戻りつつある。多くの観光客が来てくれることはありがたいが、このことにより地域住民としては交通安全上の問題がある。それは、ジェットコースターの路は起伏の多い路であり、一番起伏の高い見通しの悪いところに八景の案内標識があることにより、そこに車を止めて景色を眺めたり写真を撮ったりしている。観光協会でも駐車禁止の立て看板は設置してあるが、全くお構いなし、道路の両側に車がいる状態である。このようなことが続くことは好ましくないため対策を考えていただきたく2点について伺う。</p> <p>(1) 今まで駐車帯、駐車場設置についての経過は。</p> <p>(2) 八景の案内標識の場所の移動の考えは。</p>
<p>6 7番 米沢 義英 1 高齢者対策について (町 長)</p>	<p>全国で高齢者の人口が増える傾向にあり、本町においても同様な傾向にあり、令和3年度以降については、前期高齢者は減少傾向にあるが、後期高齢者については増加傾向にあり、高齢化率も上昇が続くことが予想されている。近頃では、介護疲れなどが要因で事件や事故も起きているが、町においても老々介護・認知症の親などを家族が支えているなどの実態もあり、町においても高齢者やその家族が安心して地域で暮らせる支援策が一層求められていると考える。次の項目について町長の答弁を求める。</p> <p>(1) 今後、高齢化率が高くなる中で認知症高齢者対策や介護者に対する支援策が必要と考えるが、具体的な対策について伺う。</p> <p>(2) あらゆる状態の高齢者や家族が地域で安心して暮らせるための支援は欠かせない。そのためには、地域包括センター機能の強化や、権利擁護、各種相談などの対応しなければならない専門性の求められる場所で人員の確保が必要と考えるが、町長の見解を伺う。</p>
<p>2 高齢者の補聴器助成について</p>	<p>高齢化により耳の聞こえが悪くなり、仕事や社会生活に支障が出る人もいる。また、そのまま放置しておけば、生活障</p>

(町 長)	害だけではなく、認知発症のリスクとなる可能性も報告されており、介護予防や生活の質を維持していくうえでも補聴器の早期利用が解決方法にもなると考える。他の市町村では障害者手帳を持っていなくても基準を設けて支給する自治体も出てきているが、町長の見解を伺う。
3 高校生への支援制度について (町 長)	上富良野高校へ進学する生徒には、高校維持存続のための政策として入学時における制服購入補助などがあるが、校区外に通学する生徒にはない。高校に通学するには制服購入や定期代などの負担は高額になる。他の高校へ通学する子供たちにも上富良野高校のような支援を望む声があるが、今後の対応について町長の見解を伺う。
4 営業と暮らしを守る対策について (町 長)	コロナ禍で急激な物価高から、町民の営業と暮らしを守ることが求められている。この間だけでも、ガス・電気・生鮮食料品・農業資材や飼料等が値上がりし、暮らしが大変な状況にある。町においては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用するなどして、子育て世帯・高齢者世帯や営業や暮らしを守るための具体的な対策が必要と考えるが、町長の見解を伺う。
5 道路の改修について (町 長)	南町2丁目1条通りと交差する道道上富良野・旭中・富良野線の交差点は冬期間にはカーブを曲がることができずガードレールに衝突する事故が発生している危険な交差点で、改修が必要と考えるが、この間、関係機関などとも改修計画について協議を重ねていると考えるが、進捗状況について伺う。
6 泥流地帯の映画化について (町 長)	町では、三浦綾子の文学、泥流地帯を活用し泥流地帯の映画化が進められているが、コロナ禍のなかで映画化が進まない状況にあるが、現状と課題など進捗状況について伺う。
7 8番 荒生 博一 1 ラベンダーハイ ツの将来像につい て (町 長)	昭和59年4月1日に開設された上富良野町ラベンダーハイツは今年で開設38年になる。RC（鉄筋コンクリート）の耐用年数は一般的に47年であるが、「寿命」は65年以上とも100年以上とも言われている。 齊藤町長就任後これまでの間、議会でのラベンダーハイツに関しての質疑では、将来像について、任期の間は前町長の方針を受け継いで公設公営でしっかりとサービスを提供していきたいとの答弁であった。

	<p>また、過日示された町立病院の基本計画においては、同一敷地内に将来的にはラベンダーハイツを移設することで、治療・療育・介護をワンストップで利便性を図っていききたいとの方向性を示しているが、具体的な時期、規模については言及していない。</p> <p>そこでラベンダーハイツの将来像に関して以下3点伺う。</p> <p>(1) 町長は、RC（鉄筋コンクリート）の建物であり、ボイラーも交換済みであるため、10年以上は現在の建物を修繕しながら使用していききたいとことである。今後、現在の建物で機能改善を図っていく場合、時代のニーズにあわせ、多床室から個室化する計画などの検討をしていく考えか伺う。</p> <p>(2) 町長は、前町長の方針を受け継いで公設公営でしっかりとサービスを提供していききたいとの事だが、公設公営を続けるに際しての齊藤町長の考える主な理由は。</p> <p>(3) これまでの議論の中でも、一般会計からの経営安定化対策分の繰り出し金が10年間で5億円、20年間で10億円、更にこれから先、昭和59年の建物に対しての長寿命化にかかる維持・修繕費用は計り知れない。</p> <p>執行者として町民に対し将来の見通しを早期に立て、具体的なラベンダーハイツの将来に向けた計画を策定することで無駄な支出が抑えられると考えるが町長の見解を伺う。</p>
<p>2 上富良野町パークゴルフ場について (教育長)</p>	<p>パークゴルフの歴史は、昭和58年に幕別町で考案され普及が図られた。</p> <p>その後、昭和61年に当町教育委員会及び体育指導員会において、軽スポーツの振興を図る目的で「パークゴルフ導入」が決定され、社会教育推進計画に盛り込まれた。同年9月には、教育委員会職員と体育指導員の手造りで、島津公園内に9ホールのコースが造成された。</p> <p>このコースが平成3年に18ホールに増設され、若い方からお年寄りまで誰にでも親しむことができ、歩くことで有酸素運動としての健康増進にも一役買っていることなどから、多くのパークゴルフ愛好者で賑わい、「上富良野町パークゴルフ協会」が設立された。</p>

平成 10 年には、体育指導委員会と上富良野町パークゴルフ協会よりパークゴルフ場新設の要望書が町長、教育長、町議会議長に提出され、5 年後の平成 15 年に、待望の現在の上富良野町パークゴルフ場が新設された。

来年の令和 5 年には、上富良野パークゴルフ場が新設され 20 年目の節目の年を迎える。そこで教育長に以下 3 点について見解を伺う。

- (1) 近年、管理について大きな不満が寄せられている。利用者からは特に芝の状態が悪いなどの不満の声が聞かれる。不満解消に向けコース管理整備についてどのような取り組みがなされているのか伺う。
- (2) ここ数年利用者の減少が続いている中、昨年は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2 度にわたりパークゴルフ場が使用できなくなるなど経営面でも大きな打撃を受けている。行政として利用者増に向けた取り組みをどのようにすべきと考えているか。また、利用者の拡大がされない状況をどのように受け止めているか伺う。
- (3) 現状のクレームが続く状況下では、なかなか新規利用者増は見込めない。

新設当初の魅力的なコースにするためには、長期的な具体的整備計画の策定が必要と考えるが、教育長の見解を伺う。